

おと
OTOの会 新作コンサートシリーズ No. 28

Quartet Integra クァルテット・インテグラ
×
OTOの会 vol. 3

2023年12月25日(月)

19:00開演(18:30開場)

東京オペラシティ リサイタルホール



ごあいさつ

本日は、ようこそ^{おと}OTOの会新作コンサートシリーズNo.28、クアルテット・インテグラ×OTOの会 vol.3にお出でくださいました。クアルテット・インテグラは、当シリーズ登場第3回となります。最多であると共に、最若手でもあります。

2020年12月のVol.1、2021年9月のVol.2開催の頃は、正にコロナ禍下、音楽活動の継続が非常に困難な時期であったのですが、インテグラの皆さんの方から励まされるような形でコンサートを実施。結果、計14曲もの新作が無事初演されました。感謝しかありません。驚くべきは、作品を書き下ろした14人の作曲家の一人残らずが、その、完璧で、譜面の深い理解に基づいた、芳醇とも言える演奏に、心から満足をしたということです。上手い出来ないことがあって当たり前という新作の初演の常識を、この、飛び切りの才に恵まれた若者たちは軽く打ち破ってくれました。

本日も、8人の作曲家の手によるソロやデュオも含む8新作が並びます。末吉保雄作曲<コレスポンドダンスIX>(1999)の再演もあり、その楽譜をこの度OTOの会で初版制作をし、本日のホワイエで新発売いたします。

それでは皆さま、会場で、配信で、どうぞ最後までゆっくりとお楽しみください。

クアルテット・インテグラ × OTOの会 vol. 3 企画運営責任者 大家 百子

クアルテット・インテグラ Quartet Integra

2015年桐朋学園に在学中に結成。2022年ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第2位。併せて、聴衆賞を受賞。2021年バルトーク国際コンクール弦楽四重奏部門第1位。第8回秋吉台音楽コンクール 弦楽四重奏部門第1位。併せて、ベートーヴェン賞、山口県知事賞を受賞。キジアーナ音楽院夏期マスタークラスにて最も優秀な弦楽四重奏団に贈られる"Banca Monte dei Paschi di Siena" Prizeを二度に渡り受賞。クライブ・グリーンズミス氏、ギンター・ピヒラー氏の指導を受ける。第41回霧島国際音楽祭に出演し、堤剛音楽監督賞および霧島国際音楽祭賞を受賞。これまでに、磯村和英、堤剛、練木繁夫、山崎伸子各氏、クアルテット・エクセルシオと共演し好評を博す。NHK「クラシック倶楽部」、「リサイタル・パッショ」、「ららら♪クラシック」等に出演。サントリーホール室内楽アカデミー第5,6期フェロー。磯村和英、山崎伸子、原田幸一郎、池田菊衛、花田和加子、堤剛、毛利伯郎、練木繁夫各氏に師事。公益財団法人松尾学術振興財団より助成を受ける。2022年秋よりロサンゼルスのコルバーンスクールにレジデンスアーティストとして在籍。現在、クライブ・グリーンズミス氏、マーティン・ビーヴァー氏に師事。

※都合によりチェロ奏者が交代することとなりました。本日の公演では山梨浩子の演奏となります。

Program

成田 民子

弦楽四重奏曲「眠れない夜」 Sleepless nights

犬たちと踊る Dancing with puppies

推理小説を読む Reading detective stories

砂漠で星を眺める Stargazing in the desert

山田 英り子

贈り物

～弦楽四重奏のために～

酒井 威志

傀儡幻想

小田 百合子

The Whispering Banksia

for string quartet

横島 浩

弦楽四重奏曲第2番

—— 休憩 ——

名倉 明子

“Sleeping Beauty”

for violoncello solo

橋本 忠

「扉」

～独奏ヴィオラのための～

大家 百子

“Long the Night” for Violin Duo

～ Variations on a Ukrainian folk carol ～

末吉 保雄

コレスポンダンス IX –弦楽四重奏のために

(1999)

成田民子／弦楽四重奏曲「眠れない夜」 Sleepless nights 犬たちと踊る Dancing with puppies 推理小説を読む Reading detective stories 砂漠で星を眺める Stargazing in the desert

今回の作品を、アメリカの写真家 Solus1 Photography 氏に捧げます。
WEB 操作が極度に苦手な私は、3 年前に S 氏のインスタグラム DM の熟睡する愛犬写真に間違っただけ文字をタップしてしまいました。そのまましておこうかと迷ったのですが、「お送りしたかったのはこちらです」とお詫びの連絡を入れ、そこからやり取りが始まりました。夜中に起き出して撮影した星空の写真など送ってくださる S 氏に不眠の傾向があることを間もなく知り、「いつかお返しに眠くなる曲を書いて捧げるので、運転中は聴かないでくださいね」と約束しました。当時は不眠について感覚的には何も知らなかった私も、一昨年に愛犬を亡くしてから夜中に目が覚める度に眠れなくなり、苦しさがかすみわかるようになりました。そして、眠れない自分が S 氏の時間を想像する曲となりました。

山田英り子／贈り物 ～弦楽四重奏のために～

クリスマスといえば、プレゼントが楽しみのひとつです。欲しいものをリクエストしたらもらえたり、サプライズのプレゼントが成功したり、何かうまくいかなかったりと、様々なことが思い出されます。また、今年は身近な方々が記念すべき年を迎えました。

そこで、それらを考え合わせて、不器用なりに小さな物語のような弦楽四重奏曲を作曲しました。

“present” “anniversary” などの単語や、ある方々のお名前を、私のやり方で音に変換して作っています。

クアルテット・インテグラの皆様に演奏していただけることを、心より感謝いたします。

酒井威志／傀儡幻想

人形にはさまざまな「顔」があります。時に愛らしい玩具として、時に不気味な存在として、あるいは人間の分身のようなものとして、しかし決定的な隔たりを持ったものとして、彼らは古今東西、そこかしこに姿を見せ続けてきました。そして「傀儡」（くぐつ）と言い換えれば、なにやら一層禍々しい印象となるかもしれません。

音楽との関わりに於いても、ドリーブ《コッペリア》、チャイコフスキー《くるみ割り人形》、ストラヴィンスキー《ペトルーシュカ》など、上に挙げたような多面性のそれぞれに反映された作品が生まれています。この《傀儡幻想》は明確な物語を背景としたものではありませんが、しかし、ついに「人ならざるもの」を巡って喚起される、おぼろげなドラマに似たものがあるとすれば……と思いつつ題名を選びました。

成田民子 Narita Tamiko

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。
ピアノを故雨田のぶ子、高柳朗子、作曲を故平吉毅州、ジャズ理論を加古隆の各師に師事。「劇団青年座」などへの作曲を経て、1996 年に劇団「子どもミュージカルシアター」（現「ピバ!ミュージカル」）を創設。「マリー・キュリー」「黄金の日々を胸に（津田梅子）」など伝記、「ハーメルンの笛吹き」など伝説、「友達たんでい宝さがし」などオリジナル謎解き物、の脚本、作詞、作曲を担当。

山田英り子 Yamada Eriko

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学作曲科卒業、同大学研究科修了。
作曲を三瀬和朗氏、ピアノを三瀬あけみ氏、ヴァイオリンを篠崎功子氏に師事。器楽アンサンブルや合唱、子どものための作品を中心に発表。作品が掲載されたヴァイオリン曲集「ソレラミのうた」（川合左余子編・著）が音楽之友社から発売されている。

酒井威志 Sakai Takeshi

桐朋学園大学音楽学部（作曲専攻）卒業、同大学院修士課程修了。作曲を三瀬和朗・小鍛冶邦隆・正門憲也の各氏に、指揮を黒岩英臣・紙谷一衛・梅田俊明の各氏に、ピアノを石岡久乃氏、声楽を与那城敬氏、ヴァイオリンを鷺見健彰氏、音楽学を沼野雄司氏に師事。室内楽・管弦楽・合唱・吹奏楽・放送・映像など諸分野での作編曲・指揮・ピアノ、学校や音楽教室での教育活動、音楽を中心とする文章執筆や各媒体での監修などに従事。

小田百合子／The Whispering Banksia for string quartet

オーストラリア在住の友人で写真家の後藤桂子氏の写真展“Beyond Borders” (2022) で見た“Multifaceted (多面体) 1”に触発されてこの曲を書いた。抽象的なタイトルだが、写真はバンクシアという豪州原産の植物の実である。目新しい不思議な形の木の実は、バックマンに見えたり、嘴だったり、人間の口に見えたり。暫くすると声が聞こえてきそうになった。拝借した写真を譜面台に置いてじいっと眺める。何も聞こえない。視線を外すとサワサワサワ。何力聞こエタ? じいっ、そらす、一瞥、背ける、直視、知らんぶり、見る、見ない。ずっと気配を感じていたら、ある時 hisohisohiso、妄想? クアルテット・インテグラの4人に初演して頂けることを嬉しく思います。(ホワイエにある写真を是非ご覧ください!)

横島浩／弦楽四重奏曲第2番

ランダム数列による音高の選択と、それに緩く準じた音価によっている。短いブロックを並べる構成になり、それぞれテンポが異なっている。弦楽器の特徴である機動性や音質の幅広さも意識した。弦楽四重奏曲第1番はセリー音楽を感覚的に作ってみたが、本作はそれよりもやや縛りが多いものとなっている。

名倉明子／“Sleeping Beauty” for violoncello solo

本作品は、振付家マリウス・ブティパ (1818～1910) の代表作、バレエ《眠れる森の美女》(P. チャイコフスキー作曲・1890年初演) の第3幕における「グラン・パ・ド・ドゥ」の舞踊動作により導き出された音楽である。ちなみにストーリーは一切考慮していない。「グラン・パ・ド・ドゥ」とは主役二人で踊る一連の形式を指し、1.アントレ(入場)～2.アダージョ (男女がテンポの遅い音楽に合わせて踊る)～3.男性のヴァリエーション(ソロ)～4.女性のヴァリエーション(ソロ)～5.コーダ(テンポの速い音楽により再び二人で踊る終結部)の5パートで構成されている。「ヴァリエーション」は音楽用語だと「変奏」だがバレエでは「ソロの踊り」のことをいい、主役級の踊り手がテクニクを披露する見せ場となる。

橋本忠／「扉」～独奏ヴィオラのための～

私の敬愛する夭折の天才画家、佐伯祐三氏の「扉」にイメージを受けて書いた。絶筆とされるこの絵は、パリの建物の入り口の扉のみを正面から描いたもので、絶妙なバランスの線の歪みや同色系の煤んだ細かな色使いは独特であり、その堅牢な構図とも相俟って孤高の輝きを放っている。彼の魂が絵中に息づき、それは恰も画家が残した最期の自画像のようでもあり、死を目前にした者の彼岸への扉のようにも思えて胸に迫る。

僅か30年という短い人生を芸術に捧げ激しく燃焼した彼の来し方にも思いを馳せ、その進る情熱に圧倒されながら、様々な感興を5つの小品にした。

- I Andante misterioso
- II Andantino arioso
- III Intermezzo (scherzando)
- IV Monologue (elegiaco)
- V Prestissimo appassionato

数年前に聴いた山本一輝さんのリサイタルでの、深く、温かく、美しいヴィオラの音色や多彩な表現力に魅せられ、大いに触発された。その山本さんに初演して頂ける幸運に心より感謝している。

小田百合子 Oda Yuliko

桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。作曲を故末吉保雄氏に師事。十数年のブランクを経て2001年に活動を再開。東日本大震災後に書き下ろしたソプラノのための「メッセージ」は好評を得て、自作品でまとめたCDをリリース。近作は箏四重奏曲「萬家の春」、ヴァイオリンとピアノのための「響きのゆりかご」、Motorbike Rhapsody for trombone soloなど。

横島浩 Yokoshima Hiroshi

長野市出身。武蔵野音楽大学大学院修了。現音新人賞第5、7回入選。第74回日本音楽コンクール第1位。知られざる作品の発掘にも努め、ピアニスト・指揮者としてコンサートプログラムに乗せている。現在、福島大学人間発達文化学類教授。

名倉明子 Nagura Akiko

宇都宮市出身。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。第17回現音作曲新人賞、第70回日本音楽コンクール作曲部門第1位、安田賞、第4回宇都宮エスペール賞、第2回牧野由多可賞作曲コンクール佳作。特定非営利活動法人日本現代音楽協会会員、アプサラス理事。現在、山形大学地域教育文化学部教授。

橋本忠 Hashimoto Tadashi

桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業、同研究科修了。作曲を末吉保雄氏に師事。1992年、桐朋の研修制度により渡仏。パリ・エコール・ノルマル音楽院にて作曲を平義久氏に師事。1994年、同音楽院作曲科を首席で卒業。この間、パリの日本大使館他で作品が演奏された。また、フランス、メキシコ、イタリアの音楽祭等でも作品が演奏されている。近作に、フルートと三味線のための“炎”、弦楽四重奏曲「あおい夜」等。元桐朋中・高等学校教諭。

大家百子 / “Long the Night” for Violin Duo

～ Variations on a Ukrainian folk carol ～

2022年3月17日、ウクライナとの国境近くのハンガリーの街を訪れたイギリスの男声ヴォーカルグループ、キングスシンガーズは、ウクライナのクリスマスキャロルをオリジナルなアレンジをもって歌い、その日のコンサートの幕を開けました。たまたまYouTubeでそれを聴いた私の胸には、このもの悲しくも美しい旋律が焼き付いて離れず、ほどなくそれを女声用にアレンジしました。主宰するアマチュア合唱団で折につけ歌っています。そしてこの度のコンサートをクリスマスに開催することが決まるや、もうこれしかないという思いに憑りつかれてしまった私は、このキャロルをテーマにヴァイオリン・デュオのための11の変奏曲を創ることになりました。しかし、その初演を待つ僅かな間にパレスチナの間でも戦いが始まりました。今は書くべき音も見つかりません。

末吉保雄 / コレスポンダンス IX – 弦楽四重奏のために (1999)

「作曲活動の当初から、主として声、笛、打楽器のために多くを作曲してきた。」これは生前の末吉保雄が定番のように用いた自身のプロフィールである。ところが2000年を過ぎようとする頃からここに「近年は、弦楽器、ピアノ付き歌曲、子どもたちのための音楽などに領域を広げている。」という文が加わるようになる。この「弦楽器」の指すところの第一弾がコレスポンダンスIXである。初演は2000年2月10日、OTOの会新作コンサートシリーズ No.2<エクセルシオ弦楽四重奏団>演奏会にて。コレスポンダンスとは、例えば手紙のやり取りや鉄道の乗り換えなど、対応、一致、照応をいう。コレスポンダンスI・II (2Cl.)、III・IV (Fl.Vn.Pf.)、V・VI (Fl.Perc.)、VII (Cb.Bassdrum) VIII (Cb.Vib.)と、同じないしは近い編成の2曲が対となる末吉のコレスポンダンス・シリーズ。IX (弦楽四重奏) 初演時のプログラムには「おそらく同じジャンルのXが続くことになる。」と、2001年再演時には「現在その途上にある。」と記されていた。IXは意趣に富んだ7つのカノン。カノンという制約を楽しむかのような四声部。手書きの美しい譜面は歓びに溢れている。第7カノンはヴィオラで閉じるが、最後の音符にはカッコ付きのピアノニッシシモ (ppp) が付されており、今にも次の音が書きつけられるのを待っているかのごとくである。Xは果たしてどのような構想であったのか。本日の再演を聴きながら想像を膨らませてみたいと思っている。(記 / 大家百子)

大家百子 Oya Momoko

桐朋学園大学作曲科卒業、同研究科修了。文化庁海外派遣研修員として渡独、独仏に計10年滞在の後帰国。作曲を故末吉保雄、W. リーム、故G. リゲティの各氏に師事。第46回日本音楽コンクール第2位(室内楽部門)、文化庁舞台芸術創作奨励賞(管弦楽部門)他。桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学各講師。主要作品:「薺舞(なずなまい)」(Shamisen+Orch.)、「こどものつばやき」(CD/カメラータ・トウキョウ)他。

末吉保雄 Sueyoshi Yasuo

(1937 - 2018)

東京生まれ。ピアノを豊増昇、作曲を石冢真礼生他に師事。東京芸術大学、パリ・エコール・ノルマル音楽院作曲科卒業。1996年の発足当初よりOTOの会の指導的メンバーとして活動、新作コンサートシリーズでは「コレスポンダンスIX」(SQ)の他、「ロンデル」(Mba)「何処に・・・」(Org)「カンツォーナA・B」(2Fl)「山頭火の秋」(三味線)「コレスポンダンスVII・VIII」(Cb・Perc)「NO HOME WAY」(16Voices)など十指に余る作品を、“わたしにもひけるかな?”では数多くの子どものためのピアノ曲その他を発表した。絶筆となった「音楽物語<おじいさんのお話“金の斧”>」は2018年7月15日、OTOの会第19回「わたしにもひけるかな?」にて自作自演された。本年3月、fontecよりCD「末吉保雄作品集」がリリース。(FOCD2588)



三澤 響果

Kyoka Misawa (1st vl)

第14回洗足学園ジュニア音楽コンクール最優秀賞およびグランプリ受賞。第66回全日本学生音楽コンクール東京大会第2位、全国大会第3位。第16回チェコ音楽コンクール第1位。これまでに佐々木歩、原田幸一郎に師事。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースを経て、現在、コルバーンスクールにてマーティン・ビーヴァーに師事。使用楽器は日本ヴァイオリンから特別貸与された1728年製 Alexander Gagliano。



菊野 凜太郎

Rintaro Kikuno (2nd vl)

第66回全日本学生音楽コンクール東京大会第1位。2017年度青山音楽財団奨学生、19・20年明治安田クオリティオブライフ文化財団音楽学生奨学生。これまで向山敦子、森川ちひろ、辰巳明子に師事、桐朋学園大学に特待生として入学し、同大学を首席で卒業。現在、コルバーンスクールにてマーティン・ビーヴァーに師事。



山本 一輝

Itsuki Yamamoto (va)

毎年ピアニストの松田龍とリサイタルを行い、石島正博『無伴奏ヴィオラの為のソナタ』を世界初演するなど、新曲の初演に意欲的に取り組んでいる。また作曲家として、『二胡とヴィオラの為のショートショート』(2021)、『無伴奏ヴィオラの為の奏鳴曲』(2023)が初演されている。ヴィオラを佐々木亮、Tatjana Masurenkoに、作曲を石島正博に師事。桐朋学園大学を卒業し、現在コルバーン・スクールに在籍。



山梨 浩子

Hiroko Yamanashi (vc)

9歳よりチェロを始め、北鎌倉女子学園高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業。第70回全日本学生音楽コンクール横浜市民賞など受賞。プロジェクトQ・第16章、調布国際音楽祭、とやま室内楽フェスティバルなどに出演。これまでに室内楽を池田菊衛、磯村和英、菊地知也、篠崎史紀、鈴木康浩、堤剛、練木繁夫、花田和加子、原田幸一郎、毛利伯郎、山崎伸子各氏に師事。チェロを毛利伯郎氏に師事。NHK交響楽団アカデミー、ウェールズ弦楽四重奏団アカデミー修了。サントリーホール室内楽アカデミー第5、6期修了、現在第7期フェロー。桐朋学園大学嘱託演奏員。

“OTOの会”の今後の活動予定

“OTOの会”ウェブサイト <https://otonokai.jimdofree.com>

2024年3月12日(火) 13時～15時 ムジカサロン・フォレスト(石神井公園)

OTOの会音楽講座

パップ晶子<ミクログコスモス1&2>の演奏法・指導法 –現代的語法でバッハの入りロー

2024年4月19日(金) 19時開演 東京オペラシティ リサイタルホール

新作コンサートシリーズ No. 29

独奏-OTO vol. 3 山田岳(ギター) × OTOの会 

出品: 岩下周二、蛸子浩二郎、木村裕、田邊皓、寺本睦美、名倉明子、深澤舞、山口恭子

2024年11月24日(日) 午後(開演時刻未定) 東京オペラシティ・リサイタルホール

新作コンサートシリーズ No. 30

アコーディオン新作コンサート2024 ～ソロ、デュオ、アンサンブル～(仮題) 

出演: Acc. 山岡秀明、太田智美、柴崎和圭、津花幸嗣、松原智美、水谷風太 Cb. 佐藤洋嗣

出品: 伊倉由紀子、大家百子、加藤梓、川浦義広、木原福子、

小島有利子、小森俊明、谷口倫子、名倉明子、橋本忠、山田英り子

2025年3月9日(日) 午後(開演時刻未定) 東京オペラシティ リサイタルホール

第23回 “わたしにもひけるかな?” 

2025年7月～9月 会場未定

新作コンサートシリーズ No. 31

J-TRAD Ensemble MAHOROBA × OTOの会

出演: 三味線 本條秀慈郎 三味線・胡弓 / 本條秀英二 尺八 / 川村葵山

箏・十七絃箏 / 吉澤延隆 箏・二十五絃箏 / 木村麻耶 囃子 / 堅田喜三郎

出品: 伊倉由紀子、大家百子、小田百合子、川浦義広、北爪やよひ、

名倉明子、橋本忠、福田恵子、三瀬和朗、森山智宏

…LIVE配信あり

“OTOの会” 新作楽譜シリーズ

“OTOの会”ウェブサイト > 現代と音 > 出版作品

OTOの会新作コンサートシリーズNo.1～27で初演された作品を中心とする計84の楽譜が
OTOの会出版より刊行、当会ウェブサイトにて販売されています。

主催:

おと
OTOの会 

助成:

公益財団法人 花王 芸術・科学財団

公益財団法人 朝日新聞文化財団

後援:

(特非) 日本現代音楽協会

コンサート風景

<https://www.youtube.com/user/OTOOnoKAI>

OTOの会 YouTubeチャンネルでは、
新作コンサートシリーズ、
“わたしにもひけるかな?” など、
近年のOTOの会コンサート風景がご覧になれます。